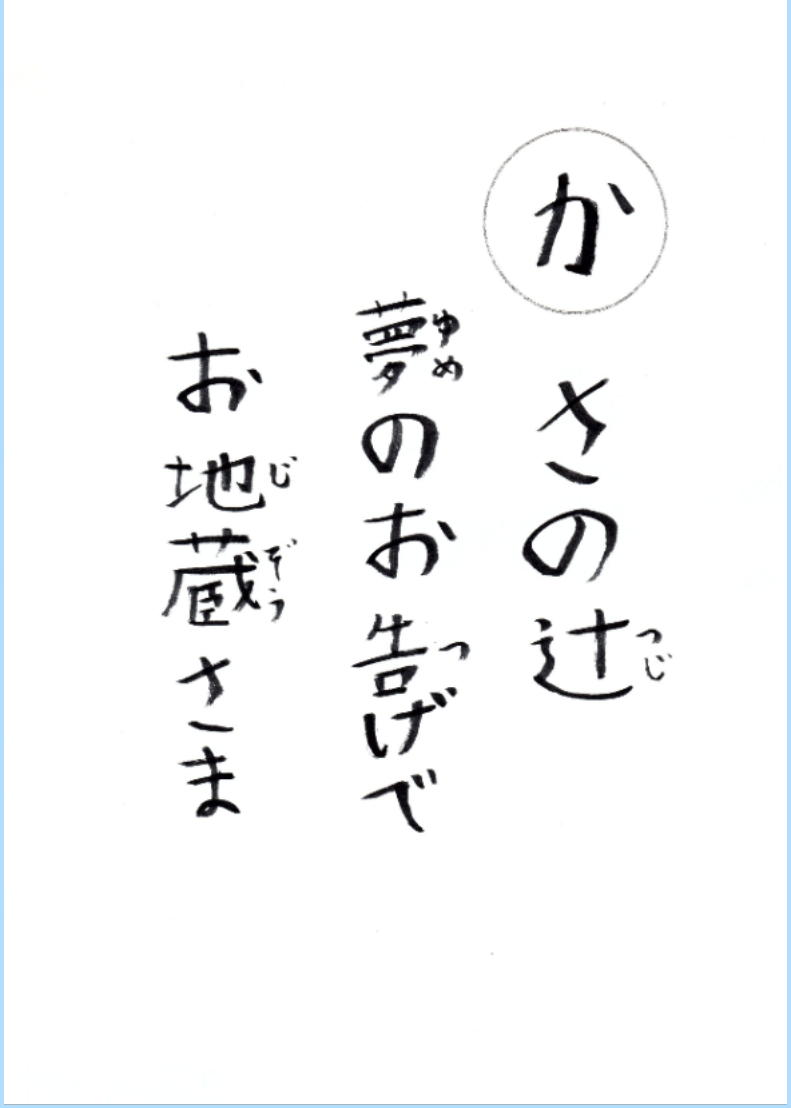
かさのつじじぞう

笠之辻地蔵



笠之辻地蔵とは

　笠之辻地蔵は、子供の成長を見守るお地蔵です。
お地蔵様と言われると赤いよだれかけなどをしているものを想像すると思いますが、
笠之辻のお地蔵様も赤いよだれかけをしています。
これは、赤が清く正直な魔除けの意味がある色だと信じられてきたからなのと、子供が元気に育つようにという願いが込められているからです。
　いつも親しみを込めてお地蔵様と呼んでいますが、お地蔵様の正式名称は地蔵菩薩(じぞうぼさつ)といいます。

　笠之辻地蔵の鈴緒(すずお)という鐘を鳴らすための布の紐には、子供が元気に育ってほしいという思いから地域の子供の名前が入っています。
　拝み方は、神様には２回礼と拍手、仏様には静かに手を合わせますが、地蔵様には「オンカカカビサンマエイソワカ」と３回、言います。

　笠之辻地蔵では毎年8月24日に地蔵盆があります。
いつも見守ってくれているお地蔵様に地域の人たちが
感謝を伝えるイベントで、子どもたちはおかしをもらえたり、くじで遊んだりできます。笠之辻地蔵もかき氷やフランクフルトが作られ、地域の人々の声でにぎわいました。

笠之辻地蔵の誕生

《笠之辻地蔵の物語》

今から千年ぐらい前、五條に桜井康成(さくらいやすなり)という
男の子と優しいお母さんが住んでいた。
康成は立派な若者に育ち、武者所　康成（むしゃどころ　やすなり）と
いう名をつけてもらったが、狩りが大好きで毎日毎日野や山へ行って大き
なキジやシカをとり、みんなに自慢していた。そんな息子をみかねたお母
さんは「むやみに生き物を殺すのはやめなさい」といってきかせたが、康
成はそれをきかず、もっと大きなえものをとろうとばかり考えていた。
ある日、いつものように狩りをしに山へ行くと、岩陰に今まで見たこと
もないような大イノシシがいた。康成は「これは山の主に違いない。とっ
て帰ってみんなを驚かせよう」と思い矢を放ち、大イノシシに命中させ
た。だが、よく見ると大イノシシと思ってうったのは実はイノシシの皮を
かぶった、いつもいつも狩りに行かないでといっていたあ母さんだった。
「お母さん、私が悪うございました。もうこれからは決して狩りはいたし
ません。もう少し早くお母さんの言うことをきいていれば……」
康成は谷間にこだまするほど大きな声で泣いた。

今までの罪滅ぼしにと康成は武士をやめて、頭を丸めてお坊さんになり、雨の日も風の日も休むことなく一歩一歩、大和郡山の矢田寺へお参りに行った。
ある夜、夢の中でお地蔵さんが「お前は毎日熱心に郡山までお参りをしているが大変であろう。これからは、家の近くの辻に笠と杖をおくからその地にお地蔵さんをつくりお参りするがよい。」とおつげがあったので康成はお地蔵さんをつくり毎日おがんだ。

　　これが笠之辻地蔵と呼ばれるようになった所以です。
ちなみに、康成はその後、くらいの高いお坊さんになり、大遍寺と桜井寺というお寺をつくったそう。

↑笠之辻地蔵の判子

笠之辻地蔵
(堀川浩美　文
河崎眞左彌　絵)

身近なお地蔵様

　家のそばの辻にあるお地蔵様は、昔からあり、
地域の人たちに大切にされてきたことがわかりました。
　現在(令和4年)は地蔵盆は行われていませんが、楽しく、
お地蔵様に感謝を伝えるいい機会なので、また早く
やりたいです。
　お地蔵様についてたくさん知ることが
できたし、また他にも地域のことを
知りたいなと思いました。

作成者：K.H.